アイヌ民話ライブラリ 2

上田トシの民話 2

アイヌ民族博物館

第４話　散文の物語

ウサギの穂摘み

収 録 日：1996年９月28日
資料番号：35232A
添付 CD：3-4（８分19秒）

第４話　散文説話「ウサギの穂摘み」[1]

（ある独り暮らしの男性が語る）

ヤイコアン　オッカヨ　アネ　ヒネ
yaykoan　okkayo　a=ne　hine　　私はひとりで暮らしていました。
ひとり暮らしする　男　(私)であっ　て

プイネ　アナン　ペ　ネ　クス
puyne　an=an　pe　ne　kusu　　ひとりきりなので
ひとりで　暮らす(私)　もの　だ　から

エキムネアン　ワ　イワカン　ヤッカ
ekimne=an　wa　iwak=an　yakka　　山猟に行って帰って来ると
山猟に行く(私)　して　帰る(私)　しても

ヤイカタ　スケアン　ワ　イペアン　コロ
yaykata　suke=an　wa　ipe=an　kor　　自分で料理をして食事をして
自分で　料理する(私)　して　食事する(私)　ながら

5　アナン　ペ　ネ　ア　プ
an=an　pe　ne　a　p　　いたのでした。
いる(私)　もの　だっ　た　が

シネ　アン　タ　エキムネアン　ヒネ
sine　an　ta　ekimne=an　hine　　ある時山猟に行って
ある時　山猟に行く(私)　して

イワカン　アクス　アウニ　ウン
iwak=an　akusu　a=uni　un　　帰って来ると、私の家に
帰る(私)　したところ　(私の)家　に

スプヤ　アッ[2]　コロ　アン　ヒネ
supuya　at　kor　an　hine　　煮炊きの煙があがっていました。
煙　立っ　て　い　て

アオヤモクテ　コロ　ネ　コロカ
a=oyamokte　kor　ne　korka　　不思議に思いながら
(私)不思議に思う　ながら　だ　けれど

10　アウニ　ウン　アフナン　ルウェ　ネ　アクス
a=uni　un　ahun=an　ruwe　ne　akusu　　家に入って行ったところ
(私の)家　に　入る(私)　こと　だっ　たところ

ピリカ　ワ　オケレ　ポン　メノコ
pirka　wa okere　pon　menoko　　とてもきれいな若い女性
とてもきれいな　若い　女性

レタラ　コソンテ[3]　ウトムチウレ
retar　kosonte　utomciwre　　白い着物を着た
白い　上等な着物　を着る

1　この話は 1996 年 9 月 28 日アイヌ民族博物館のアイヌ文化教室「口承文芸の夕べ」で採録されたもの。解説は本田優子氏。この話の伝承経路については特にコメントがない。

2　無人の家に煮炊きをする煙が上がっていたということ。火事になっていたわけではない。

3　着物の色についてあえて触れているのは、その着物の色が女性の正体に関係するということを示唆している。

ポン　メノコ　スケ　コロ　アン　ヒネ
pon　menoko　suke　kor　an　hine
若い　娘　料理し　て　い　て
若い女性が料理を作っていました。

オロ　タ　アフナン　ルウェ　ネ　アクス
oro　ta　ahun=an　ruwe　ne　akusu
そこ　に　入る(私)　こと　だっ　たところ
私が入って行くと

15 オラ　イオリパク　コロ　アニ　クス
ora　i=oripak　kor　an _hi　kusu
そして　(私に)遠慮し　ながら　いる　ので
かしこまって

アコオンカミ　カ　キ　ア　プ
a=koonkami　ka　ki　a　p
(私)拝礼し　も　し　た　が
拝礼をして

オラ　ピリカ　スケ　キ　ヒネ　イコイプニ　ヒ　クス
ora　pirka　suke　ki　hine　i=koypuni　hi　kusu
そして　おいしい　料理　し　て　(私に)差し出す　ので
上手に作った料理を私に出してくれたので

イペアン　カ　キ　ア　プ
ipe=an　ka　ki　a　p
食事をする(私)　も　し　た　が
食べたのでした。

オラ　ニサッタ　ネ　アン　ヒケ　カ
ora　nisatta　ne　an　hike　ka
こんど　翌日　に　なっ　て　も
翌日になると

20 ネウン　カ　アラパ　プ　ネ
neun　ka　arpa　p　ne
どこか　も　行く　の　だ
どこかへ行くのだろうと

クナク　アラム　ア　プ
kunak　a=ramu　a　p
ろうと　(私)思っ　た　が
思っていましたが

ネウン　カ　アラパ　カ　ソモ　キ　ノ　アン。
neun　ka　arpa　ka　somo ki　no　an.
どこに　も　行き　も　しない　で　いる
どこへも行かずにいました。

ラポッケ　エキムネアン　ヒネ　イワカン　アクス
rapokke　ekimne=an　hine　iwak=an　akusu
そのうちに　山猟に行く(私)　して　帰る(私)　したところ
そのうちに私が山猟に行って帰って来ると

オラ　スイ　スケ　コロ　アン　ヒネ
ora　suy　suke　kor　an　hine
こんど　また　料理し　て　い　て
また食事を作っているので

25 ネ　イペアン　ヒネ…
ne　ipe=an　hine...
それ　食事する(私)　して
それを食べていました。

オラノ ケシ ト アン コロ イパロイキ[4] コロ アン ワ
orano kes to an kor i=paroyki kor an wa そして毎日私に食事を作ってくれて
それから 毎日 (私に)食事を作っ て い て

トゥラノ アナヌミ ピリカ
turano an=an _humi pirka 一緒に暮らすのが心地よく
一緒に 暮らす(私) 感じ 良い

カ タ オラ スケ エアシカイ
ka ta ora suke easkay その上料理が上手で…
その上 に こんど 料理 が上手である

ピリカ キナ ラタシケプ ネ ヤッカ カラ ワ
pirka kina rataskep ne yakka kar wa 上手に野草の煮物も作って
上手に 野草の 煮物 で も 作っ て

30 イパロイキ。
i=paroyki. 私に食べさせてくれました。
(私に)食事を作る

エアラキンネ アコヤイライケ コロ アニケ カ
earkinne a=koyayrayke kor an _hike ka 本当に感謝をして
本当に (私)感謝し て いる しても

オラノ ネウン カ
orano neun ka それからはどこにも
それから どこに も

アラパ カ ソモ キ ノ
arpa ka somo ki no 行かずにいました。
行き も しない で

エキムネ コロ ウサ キナ ラタシケプ
ekimne kor usa kina rataskep 山に行って野草や
山猟に行っ て 色々な 野草の 煮物

35 ウサ ピヤパ プシ ネ ヤ
usa piyapa pus ne ya ヒエの穂や
色々な ヒエ の穂 で も

ムンチロ プシ ネ ヤ コロ ワ イワク ワ
munciro pus ne ya kor wa iwak wa アワの穂をとって帰って
アワ の穂 で も 持っ て 帰っ て

オラ ナニ ウタ ワ ピリケプ カラ ワ
ora nani uta wa pirkep kar wa すぐに杵でついて精白し
こんど すぐ 搗い て 精白 し て

ネ ピリケプ アニ ネ ヤッカ スパ ワ
ne pirkep ani ne yakka supa wa その精白した穀物を料理して
その 精白した物 で で も 料理し て

4 パロイキ　paroykiは老人や子供など、生活の一切を養うという意味でも使われるが、ここでは食事の支度など日常の世話をしてもらったということ。

イパロイキ。
i=paroyki.
(私に)食事を作る
私に食べさせてくれました。

40 エアラキンネ　トゥラノ　アナヌミ　ピリカ
earkinne　turano　an=an　_humi　pirka
本当に　一緒に　暮らす(私)　感じ　良い
本当に一緒にいて心地が良く

カ　タ　オラ　ヤイコアラキキ　ルウェ
ka　ta　ora　yaykoarkiki　ruwe
その上　に　こんど　ひとりで頑張る　こと
そのうえ一生懸命働くことに

ポ　ヘネ　アコヤイライケ　コロ
po　hene　a=koyayrayke　kor
なおさら　(私)感謝をし　ながら
感謝をしつつ

アナン　ペ　ネ　ア　プ
an=an　pe　ne　a　p
暮らす(私)　もの　だっ　た　が
暮らしていました。

シネ　アン　タ
sine　an　ta
ある時
ある時

45 エキムネアン　カ　ソモ　キ　ノ　アナン　アクス
ekimne=an　ka　somo　ki　no　an=an　akusu
山猟に行く(私)　も　しない　で　いる(私)　したところ
私は山猟に行かずにいて

ネ　ポン　メノコ　カ　エキムネ　カ
ne　pon　menoko　ka　ekimne　ka
その　若い　娘　も　山猟に行き　も
その若い娘も山へ

ソモ　キ　ノ　ケメイキ　コロ　アン　アクス
somo　ki　no　kemeyki　kor　an　akusu
しない　で　針仕事し　て　い　たところ
行かずに針仕事をしていました。

サマ　タ　ヌイト　カタク　レタラ　カタク
sama　ta　nuyto　katak　retar　katak
そば　に　糸　糸玉　白い　糸玉
糸玉、白い糸玉が

ネ　ポン　メノコ　サマ　タ　ケム　カ
ne　pon　menoko　sama　ta　kem　ka
その　若い　娘　のそば　に　針　も
その若い娘のかたわらに

50 エウシ　カネ　アン　レタラ　カタク　アン　ヒ　クス
eus　kane　an　retar　katak　an　hi　kusu
そこについ　て　いる　白い　糸玉　ある　ので
針もついている白い糸玉があったので

ネ　ケム　プイ　ヌイト　アウヌ　ヒネ
ne　kem　puy　nuyto　a=unu　hine
その　針　穴　糸　(私)つけ　て
その針の穴に糸を通して

ネ　ポン　メノコ　チンキヒ　アエウシ　ヒネ
ne　pon　menoko　cinkihi　a=eus　hine
その　若い　娘　のすそ　(私)つけ　て
その若い女性の着物のすそに縫い付けて

アナン ルウェ ネ アクス
an=an ruwe ne akusu
いる(私) こと だっ たところ
おきました。

オラ エキムネ エソイェネ アクス オラノ
ora ekimne esoyene akusu orano
こんど 山猟に 出かけ たところ こんど
その娘が山に行くため外に出ると

55 ネ レタラ カタク カラカラセ ワ アラパ ヒ クス
ne retar katak karkarse wa arpa hi kusu
その 白い 糸玉 転がっ て 行く ので
その白い糸玉が転がって行ったので

オシ アラパアン アクス
os arpa=an akusu
後から 行く(私) したところ
後から追いかけて行くと

アウタリ トイタパ ヒネ オロ タ
a=utari toytapa hine oro ta
(私の)仲間 畑仕事し て そこ で
村人たちが畑仕事をする畑に行きました。

ウサ ムンチロ ウサ ピヤパ ピリカ ワ
usa munciro usa piyapa pirka wa
色々な アワ 色々な ヒエ 良くなっ て
アワやヒエがよく実り

アウタリ チャ クス パイェパ[5] コロ
a=utari ca kusu payepa kor
(私の)村人 刈り に 行く と
村人たちが収穫に行くと

60 オアリサム セコロ
oar isam sekor
全く ない と
全てなくなっているのだという話を

アウタリ ハウェオカ… ハウェアン コロ
a=utari haweoka... hawean kor
(私の)仲間 言う 言い ながら
村人たちが言っていたのですが

モシマノ アナン ペ ネ ア プ
mosmano an=an pe ne a p
かまわずに いる(私) もの だっ た が
それを聞いた時はかまわずにいました。

ネア アウタリ トイェヘ タ アラパ ヒネ
nea a=utari toyehe ta arpa hine
その (私の)仲間 の畑 に 行っ て
その村人の畑に行くと

ネア レタラ コソンテ ウトムチウレ ア
nea retar kosonte utomciwre a
その 白い 上等な着物 を身につけ た
その白い着物を着た

65 ポン メノコ イチャ コアリキキ コロ アン シリ
pon menoko ica koarikiki kor an siri
若い 娘 穂摘み に精を出し て いる 様子
若い娘が精を出して穂摘みをしている様子を

5 パイェ payeはアラパ arpaの複数形なので、そこにパ paをつけて複数形にする必要はないように思えるが、実際にパイェパ payepaという用例がある。あるいは「複数人で何度も行く」というニュアンスかも知れない。

アヌカラ ヒ
a=nukar hi
(私)見た こと
見たのでした。

オラ ポロ イセポ ネ ヒネ
ora poro isepo ne hine
こんど 大きな ウサギ であっ て
それは大きなウサギで

イチャ コロ アン シリ アヌカラ ヒ クス
ica kor an siri a=nukar hi kusu
穂摘みし て いる 様子 (私)見る ので
穂摘みをしている様子を見たので

オラ ホシピ… ナニ ホシピアン ヒネ
ora hosipi... nani hosipi=an hine
こんど 帰る すぐ 帰る(私) して
すぐに帰って

70 アウニ タ アナン ルウェ ネ アクス
a=uni ta an=an ruwe ne akusu
(私の)家 に いる(私) こと だっ たところ
家にいました。すると

シットケシ アクス オラ ネア ポン メノコ ホシピ。
sittokes akusu ora nea pon menoko hosipi.
日が暮れ たところ こんど あの 若い 娘 帰る
日が暮れる頃にあの若い娘が帰って来ました。

イポロ クルクシ カネ ヒネ
iporo kurkus kane hine
その顔色 影が射し も して
顔色が曇っていて

ホシピ ヒネ エク イネ… オラ スイ
hosipi hine ek _hine... ora suy
帰っ て 来 て こんど また
帰って来てまた

ピリカ スケ キ ヒネ イイペレ カ キ ヒネ
pirka suke ki hine i=ipere ka ki hine
おいしい 料理 をし て (私に)食べさせも し て
上手に料理を作って私に食べさせ

75 イペ オカ アン アクス イタンキ フライェ ヒネ
ipe oka an akusu itanki huraye hine
食事 が終わっ たところ お椀 を洗っ て
食事が終わり椀を洗って

オラ ウプシレ カ キ ルウェ ネ ヒネ
ora upsire ka ki ruwe ne hine
こんど 伏せ も する こと であっ て
伏せて置くと

オラ エネ ハウェアニ。
ora ene hawean _hi.
こんど このように 言った
このように言いました。

“タン オッカイポ
“ tan okkaypo
これ 若い男性
「人間の若い方

イタカン チキ エイヌ カトゥ エネアニ。
itak=an ciki e=inu katu ene an _hi.
言う(私) したら (あなた)聞く 次第 このような こと
私の言うことをよく聞いてください。

80 アシヌマ アナクネ ネプ アイヌ アネ ルウェ カ
asinuma anakne nep aynu a=ne ruwe ka
我こそ は 何 人間 (私)である こと も
私は人間ではないのです。

ソモ ネ カトゥ アナク エネ アニ。
somo ne katu anak ene an _hi.
しない そのわけ は こうである
それはこうしたわけなのです。

リクン カント タ イセポ マッネポホ
rikun kanto ta isepo matnepoho
天の 国 に ウサギ の娘
天の国のウサギの神の娘が

アネ ヒネ アナン ルウェ ネ ア プ
a=ne hine an=an ruwe ne a p
(私)であって いる(私) こと だった が
私であって

カムイ オルン インカラン コロ
kamuy or un inkar=an kor
神 の所 に 見る(私) ながら
神の国を見ても

85 アヤイコトムカ プ シネ クル カ イサム。
a=yaykotomka p sine kur ka isam.
(私)ふさわしい 者 一 人 も いない
私にふさわしい男性はひとりもいませんでした。

アイヌ オルン インカラ コロ
aynu or un inkar kor
人間 の所 を 見る と
人間の世界を見ると

エアニ パテク アヤイコトムカ カ タ オラ
eani patek a=yaykotomka ka ta ora
あなた だけ (私)ふさわしい 上 に こんど
あなただけが私にふさわしいうえ

エケウトゥム ピリカ
e=kewtumu pirka
(あなたの)心 美しい
心も美しく

エコロ シレトク ネ ヤ アイコオヨイセ[6] ワ
e=kor siretok ne ya a=ikooyoyse wa
(あなた)の 美貌 で も (私)心ひかれ て
容姿も立派なので好きになりました。

90 オラ エカン マ
ora ek=an _wa
こんど 来る(私) して
そこでここへ来て

タア エトゥラ ノ アナン ルウェ ネ コロカ
taa e=tura no an=an ruwe ne korka
こう (あなたを)伴って 暮らす(私) の だ けれど
このように一緒に暮らしていたのですが

ネウン カ ネ エマチヒ ネ アナン ヤクン
neun ka ne e=macihi ne an=an yakun
どうに も その (あなたの)妻 に なる(私) ならば
妻になったならば

6 神が神の国に気に入った相手がおらず、人間の異性を好きになるというのは散文説話で神と人が関わりを持つ理由としてよく見られるものである。

イセポ　ポ　アコロ　ヤクン
isepo　po　a=kor　yakun　ウサギの子をもうけて
ウサギ　の子　(人)持つ　ならば

イセポ　マッ　エコロ　セコロ
isepo　mat　e=kor　sekor　ウサギの嫁をもらったと
ウサギ　妻　(あなたを)持つ　と

95 コタン　オルン　ウタラ　ハウェオカ　ワ
kotan　or　un　utar　haweoka　wa　村の人たちが言って
村　の所　の　人たち　言う　して

ア…　ミナレ　クニ
a...　minare　kuni　笑われるのが
笑われる　と

アエランポキウェン　クス
a=erampokiwen　kusu　気の毒なので
(私)かわいそうに思う　ので

エマチヒ　ネ　アナク　アナン　カ　ソモ　キ　コロカ
e=macihi　ne　anak　an=an　ka　somo ki　korka　妻にはなりませんでした。
(あなたの)妻　に　は　なる(私)　も　しない　けれど

エパロオシケ　ポカ　アキ　ワ
e=parooske　poka　a=ki　wa　あなたの世話だけをして
(あなたの)世話をする　だけでも　(私)し　て

100 アヤイコトゥヤシ　クス　エカン　マ
a=yaykotuyasi　kusu　ek=an　_wa　思いを遂げるためにやって来て
(私)思いを遂げる　ために　来る(私)　して

エカラシキ[7]　コロ　アナン　ルウェ　ネ　クス
ekaraski　kor　an=an　ruwe　ne　kusu　もったいなく思いながら暮らしていたのです。
もったいない　と　暮らす(私)　こと　だ　から

オラ　タネ　オンネアン。[8]
ora　tane　onne=an.　私はもう年を取り
こんど　もう　年を取る(私)

カムイ　オルン　アラパアン　ルスイ　クス
kamuy　or　un　arpa=an　rusuy　kusu　神のところに帰りたいのです。
神　の所　に　行く(私)　したい　ので

カムイ　オルン　アラパアン　オカ　タ　ネ　ヤッカ
kamuy　or　un　arpa=an　oka　ta　ne　yakka　神のところに私が帰った後
神　の所　に　行く(私)　後　に　で　も

105 ネイ　ワ　ネ　ヤ　ピリカ　ワ　オケレ　ポン　メノコ
ney　wa　ne　ya　pirka　wa　okere　pon　menoko　どこからかきれいな女性が
どこ　から　だ　か　とても美しい　若い　娘

7　イカラシキ　ikaraski「もったいない」。ここではエカラシキ ekaraski と言っているように聞こえる。
8　ウサギなので人間より寿命が短いということだろう。

ナニ　エク　ワ　エパロオスケ　ナンコロ
nani　ek　wa　e=paroosuke　nankor
すぐ　来　て　(あなたの)世話をする　だろう
すぐにやって来てあなたの世話をするでしょう

クス　オラ…カ　キ　オラ…
kusu　ora...　ka　ki　ora...
なので　こんど　も　する　こんど
から

サケ　エカラ　ヤクン
sake　e=kar　yakun
酒　(あなた)作る　ならば
酒をつくったならば

ニッネ　サケ　ニッネ　イナウ　アニ
nitne　sake　nitne　inaw　ani
粗末な　酒　粗末な　木幣　で
粗末な酒、粗末な木幣で

110 ‘リクンカント　ウン　イセポ　トノ　アノミ　ナ’セコロ
rikunkanto　un　isepo　tono　a=nomi　na　sekor
天の国　の　ウサギ　神　(私)祭り　ます　と
『天の国のウサギの神を祭ります』と

エハウェアン　コロ　イヌラッパ　ワ
e=hawean　kor　i=nurappa　wa
(あなた)言っ　て　(私を)供養する　して
言って私を供養して

イコイチャラパ　ワ　イコレ　ヤクン
i=koicarpa　wa　i=kore　yakun
(私を)供養し　て　(私に)くれる　ならば
供物を供えてくれたならば

ネ　ポカ　カムイ　オッ　タ
ne　poka　kamuy　or_　ta
それ　だけでも　神　の所　で
それだけでも神の国で

アヤイカムイネレ　クス　ネ　ナ”
a=yaykamuynere　kusu　ne　na”
(私)神格を高められ　ます　よ
私は神格を高められるのですよ」

115 セコロ　ハウェアン　ワ　エアラキンネ
sekor　hawean　wa　earkinne
と　言っ　て　本当に
と言うので本当に

イヨクンヌレアナ…　ルウェ　ネ　ア　プ
iyokunnure=an　a...　ruwe　ne　a　p
驚く(私)　こと　だっ　た　が
驚いたのでした。

オラ…コロ　ホッケアン　ルウェ　ネ　ア　プ
ora...　kor　hotke=an　ruwe　ne　a　p
こんど　ながら　眠る(私)　こと　だっ　た　が
それから眠ったのでしたが

ニサッタ　ネ　クンネイワ…アクス
nisatta　ne　kunneywa...　akusu
翌日　の　朝　すると
翌朝になるとその女性は

120 スイ　トゥナシノ　ホプニ　ヒネ　スケ　ヒネ
suy　tunasno　hopuni　hine　suke　hine
また　早くに　起き　て　料理し　て
また早く起きて料理をして

イイペレ　カ　キ。
i=ipere　ka ki.
(私に)食べさせ　も　する
私に食べさせてくれました。

イタンキ　フライェ　カ　キ　オカ　アン　アクス
itanki　huraye　ka ki　oka　an　akusu
お椀　を洗い　も　し　終わっ　たところ
椀を洗った後で

オラ　イアラソケ[9]　タ　アン　ア　プ
ora　i=arsoke　ta an　a　p
こんど　(私の)反対側の座　に　い　た　が
いろりをはさんで対座していたのですが

オラ　ポロ　オンネ　イセポ　ネ　ヒネ
ora　poro　onne　isepo　ne　hine
こんど　大きな　年寄り　ウサギ　になっ　て
大きな年寄りウサギになって

テレケ　テレケ　コロ　ソイェネ　ヒ　クス
terke　terke　kor　soyene　hi　kusu
ぴょんぴょん跳ね　ながら　外に出る　ので
跳ねて外に行ってしまいました。

125 ナニ　オシ　ソヨシマ　アクス
nani　os　soyosma　akusu
すぐ　後から　外に出　たところ
すぐに追いかけて外に出ましたが

ネオロ　オシマ　ヒ　カ
neoro　osma　hi　ka
どこ　に入る　の　か
どこに行ってしまったか

アエランペウテク　コロ
a=erampewtek　kor
(私)わからなく　て
わからず

クリヒ　ポカ　アヌカラ　カ　ソモ　キ　コロカ
kurihi　poka　a=nukar　ka　somo　ki　korka
その姿　だけも　(私)見　も　しない　けれど
姿を見ることはできませんでした。

エネ　トゥラノ　アナヌミ　ピリカ
ene　turano　an=an _humi　pirka
こうして　一緒に　暮らす(私)　感じ　良い
このように共に暮らすのが心地よく

130 スケ　エアシカイ　ワ　トゥラノ　アナン
suke　easkay　wa　turano　an=an
料理　が上手　で　一緒に　暮らす(私)
料理も上手で

フミ　ピリカ　プ　セコロ　ヤイヌアン　ワ
humi　pirka　p　sekor　yaynu=an　wa
感じ　いい　もの　と　思う(私)　して
心地よかったのにと思って

アオカラモッテ　ア　コロカ
a=okaramotte　a　korka
(私)名残惜しく思っ　た　けれど
名残惜しかったけれど

9　いろりをはさんで反対側の座。同居する家族と仲睦まじく暮らしているときに親しみを込めて使われる表現。

エネ　ネ　ヒ　カ　イサム　ノ　アナン。
ene　ne　hi　ka　isam　no　an=an.
どう　する　こと　も　ない　で　いる(私)
どうしようもありませんでした。

ラポッケ　オラ　スイ　ネイ　ワ　ネ　ヤ
rapokke　ora　suy　ney　wa　ne　ya
そのうちに　こんど　また　どこ　から　だ　か
そのうちにまたどこからか

135 ピリカ　メノコ　エキネ
pirka　menoko　ek　hine
美しい　女性　来　て
女性がやって来て

スケ　ワ…　コロ　アン
suke　wa...　kor　an
料理し　ながら　暮らす
料理を作ってくれていました。

ラポッケ　オラ　マッ　ネ　アコロ　ワ
rapokke　ora　mat　ne　a=kor　wa
そのうちに　こんど　妻　に　(私)持っ　て
そのうちに妻にして

トゥラノ　アナン
turano　an=an
一緒に　暮らす(私)
一緒に暮らしました。

ラポッケ　オラ　ナニ　サケカラン　ワ
rapokke　ora　nani　sakekar=an　wa
そのうちに　こんど　すぐに　酒をつくっ　て
すぐに酒をつくって

140 エネ　アコヤイライケ　ア　プ　セコロ
ene　a=koyayrayke　a　p　sekor
こうして(私)感謝をするの　だった　と
このように感謝をしているのだからと

ヤイヌアン　ヒ　クス
yaynu=an　hi　kusu
思う(私)　ので
思ったので

“リクンカント　ウン　イセポ　トノ　アノミ　ナ”
“rikunkanto　un　isepo　tono　a=nomi　na”
天の国　の　ウサギ　神　(私)祭る　よ
「天の国のウサギの神を祭ります」

セコロ　ハウェアナン　コロ
sekor　hawean=an　kor
と　言う(私)　ながら
と言いながら

ニッネ　シラリ　ニッネ　イナウ
nitne　sirari　nitne　inaw
粗末な　酒粕　粗末な　木幣
粗末な酒粕、粗末な木幣

145 セコロ　ハウェアナ　コロカ
sekor　hawean　a　korka
と　言っ　た　けれど
と言っていましたが

ピリカ　イナウ　ピリカ　サケ　アニ
pirka　inaw　pirka　sake　ani
良い　木幣　良い　酒　で
上質の木幣と酒で

アオカノミ[10] コロ アナン ラポッケ
a=okanomi kor an=an rapokke　祈っているうちに
(私)供養し ながら 暮らす(私) うちに

イオシ エク ポン メノコ エウン カ
ios ek pon menoko eun ka　後から来た女性にも
後から 来た 若い 娘 に も

ポコロ カ アキ ワ
pokor ka a=ki wa　子供ができて
子供を持ち も (私)し て

ピリカ ウヘコッパ[11] アキ コロ アナン アイネ
pirka uhekotpa a=ki kor an=an ayne　仲良く暮らしました。
良く 連れ添って暮らす (私)し て 暮らす(私) うちに

タネ ヤイカタ カ オンネアン クス
tane yaykata ka onne=an kusu　今はもう年を取ったので
もう 自分 も 年を取る(私) ので

アポ ウタリ ネイ パクノ オカ ヤッカ
a=po utari ney pakno oka yakka　子供たちにいつまでも
(私の)子 たち いつ までも 暮らす しても

イセポ トノ オイラ ソモ キ ノ
isepo tono oyra somo ki no　ウサギの神に忘れずに
ウサギ 神 を忘れ ない で

コイチャラパ コイノミ ワ イコレ ヤク ピリカ ナ
koicarpa koinomi wa i=kore yak pirka na　祈りなさい
供養し 祭っ て (私)くれる と いい よ

セコロ シネ オッカヨ ポホ ウタラ
sekor sine okkayo poho utar　と、ひとりの男が子供たちに
と ある 男性 その子 たち

コイタクムイェ コロ オンネ ルウェ ネ
koitakmuye kor onne ruwe ne　遺言して死んで行きました
に言い置い て 死ぬ こと である

セコン ネ。
sekor_ ne.　とさ。
と 言う

10　okanomi 供養する、霊を送って拝む、弔ふ［久 600］

11　単数形はウヘコテ uhekote「連れ添って暮らす」。

アイヌ民族博物館　民話ライブラリ 2
上田トシの民話 2

発　行　日　　2015 年 2 月 28 日
編集・発行　　一般財団法人 アイヌ民族博物館
　　〒 059-0902 北海道白老郡白老町若草町２－３－４
　　TEL 0144-82-4199　FAX 0144-82-6121

本書は平成 26 年度公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の研究・出版助成（アイヌ文化関連出版助成）の成果である。